

第3章-4 Cブロックの研究のまとめ

Cブロック

大阪市立加美北小学校（公立）・大阪市立加美北幼稚園（公立）
大阪市加美第1保育所（公立）・さくらんぼ保育園（私立）

【ブロックテーマ】 「就学前施設と小学校相互の教育・保育を理解し合うことを通して、
連携・接続の在り方を考える」

【指導助言】 大阪教育大学 戸田 有一 教授

1 研究前のブロックの現状と課題及びテーマ設定の理由

(1) 研究前のブロックの現状と課題

Cブロックの加美北小学校は、毎年20近くの就学前施設（幼稚園・保育所・保育園・認定こども園等）からの就学がある。各就学前施設に小学校教員が訪問し、実際に子どもの様子を把握することが必要であるが、就学前施設が多く、すべての施設への訪問はなかなか実現できない現状がある。そこで本校では、入学後、子どもがよりスムーズに学校生活を送ることができるように、例年、2月頃に各就学前施設の教職員を招き、本校へ入学する子どもの様子を聞く機会を設けている。しかし、小学校や各就学前施設の教職員がお互いの取組を十分理解し合っていないことが見受けられ、スムーズにスタートカリキュラムにつなげることができていないことが課題である。その場をより充実したものにするため、「就学前施設と小学校相互の教育・保育を理解し合うことを通して、連携・接続の在り方を考える」をテーマに、本校に就学する子どもが多い、大阪市立加美北幼稚園、大阪市立加美第1保育所、さくらんぼ保育園と「連携・接続」の研究に取り組むことにした。



(2) テーマ設定の理由

本校に就学する子どもが多い就学前施設である大阪市立加美北幼稚園、大阪市立加美第1保育所、さくらんぼ保育園の教職員が互いの取組を十分理解し合い、連携・接続の在り方を考えることがそれぞれの教育・保育の質の向上につながると考えた。「就学前施設と小学校相互の教育・保育を理解し合うことを通して、連携・接続の在り方を考える」をテーマに「連携・接続」の研究に取り組み、スタートカリキュラムの充実につなげる。

2 主な取組

1年目の取組

令和2年度	取組内容
7月15日	大阪市保育・幼児教育センターより事業説明 ブロック顔合わせ会
8月	加美北小学校より就学前施設へ訪問資料を送付
9月～11月	各施設の見学
1月22日	ブロック研究協議会 戸田教授の講義 ※ 大阪モデルレッドステージのため延期

施設見学の内容

○加美北小学校主体 △加美北幼稚園主体
◇加美第1保育所主体 □さくらんぼ保育園主体

令和2年度	保育・授業見学
8月	△加美北小学校見学（1・2年の授業）
9月	□加美第1保育所見学（5歳児の自由遊び）
11月	○さくらんぼ保育園見学（3～5歳児の生活と発表会に向けての遊びの様子） ○さくらんぼ保育園見学（4・5歳児の生活や遊び） △さくらんぼ保育園見学（4・5歳児の自由遊び） ◇加美北幼稚園見学（5歳児の生活や遊び） ◇加美北小学校見学（1年生の授業や給食の様子）
12月	□加美北小学校見学（1年の授業） ○さくらんぼ保育園見学（中止）



【保育・授業見学を振り返って】

＜小学校より、就学前施設を見学して＞

- ・着替えの手順を絵でかいた表示や、棚や遊具の箱の絵や写真での表示が分かりやすく、子どもが自分で取り組みやすいように工夫されていた。
- ・園庭には子どもたちが思い切り体を動かして遊べる環境が整っていた。
- ・5歳児の給食時、誰と食べるのかを子どもたちが話し合いをして決めていた。一人で友達を探している子どもにも気付き、声をかけている子どもがいて感心した。また、発表会に向けての遊びでは、自分の踊りやせりふを覚えているだけではなく、自ら考えたせりふもあるということを伺い、大変驚いた。
- ・4歳児が外遊びから保育室に戻る際、手洗いのために、整然と一列で並んで待つことができていたことに感心した。

＜就学前施設より、小学校を見学して＞

- ・小学生が、進んで授業に参加し、先生や友達の話をよく聞き、よく考えていた。
- ・4時間目は図工の時間だったが、絵の塗り込みが終わった子どもは、次に使うどんぐりを磨くなど、個々に合わせた学習ができていた。「個々に合わせて」というところが保育と共通していると感じた。
- ・「私は〇〇だと思います」と自分で考え、意見を述べていた。
- ・小学校生活の具体的な話を聞くことで、小学校生活の見通しをもつことにつながった。例えば、「小学校の給食では骨のある魚が出る」ことを知り、就学前に保護者に知らせて家庭でも骨のある魚を食べる経験をする、安心して給食で食べられると思った。
- ・加美北小学校の先生より、小学校の状況や入学当初は自分で学習に必要なものを準備できるように、持ち物の整理の仕方について時間をかけて丁寧に教えていることなど、具体的な話を聞くことができ、小学校生活への理解につながった。
- ・外国にルーツがある児童が多く、多様な対応が必要であることが就学前施設と同様である。
- ・就学前施設の修了児である子どもたちの姿を小学校で見ることができ、成長していることを感じた。

＜就学前施設同士で見学して＞

- ・当日の保育の流れをボードに絵と言葉で表し、いつでも子どもが確認できるような環境の工夫がどの施設にもあり、子どもの主体性につながると感じた。
- ・同じ地域で育つ子ども同士の交流は、子ども、保護者にとって、就学時の安心につながると思った。



2年目の取組

令和3年度	取組内容
6月14日	教職員研修（Teamsによるオンラインライブ配信） 大阪教育大学 戸田 有一 教授 演題「幼児・児童期からのいじめ予防～いざこざ、なかだち、なかなおり～」
7月、8月	ブロック会議1 小学校生活の様子を動画撮影、就学前施設は、動画視聴
9月	就学前施設の教職員が小学校の給食を試食する（中止） 園児が動画を視聴して疑問に思ったことを手紙で伝える。
10月	Teamsによる交流会取組（スケジュールは後述記載あり）
12月22日	ブロック会議2 研究のまとめについて
2月	研究報告に向けてのまとめ

① 教職員研修（Teamsによるオンラインライブ配信）の学びについて

令和3年6月14日に4校園所合同で教職員研修会を開催し、大阪教育大学 戸田 有一教授に「幼児期・児童期からのいじめ予防～いざこざ、なかだち、なかなおり～」の演題でご講話いただいた。幼児期、児童期を取り巻く教職員や保護者が子どもの姿から思いを捉えて丁寧に受け止めていくことの重要性について、事例を通してお話しいたされ、多くのことを学んだ。

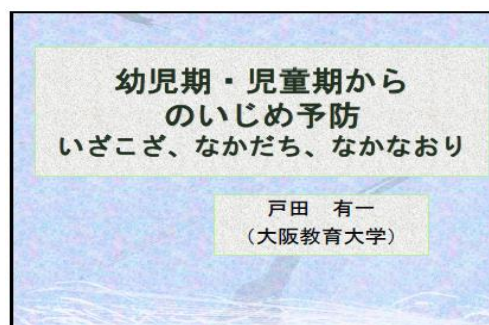
<戸田 有一 教授の講話で学んだこと>

○幼児期・低学年の子どもについて

- ・子ども同士のもめごとがあったときに教職員が丁寧に関わり、それぞれの思いを言葉で表現したり、教師が代弁したりして互いの思いを伝え合い、理解し合う経験することが人との関わりのお土台になることを再確認できた。
- ・いじめについて、子ども自身が「いじめている」「いじめられている」という自覚がないままそのような行為をしているのは低学年や就学前に多いのだと分かり、その時期に大人がどのように対処するかが重要だと思った。

○大切なことばについて

- ・子どもに「いま、どんなきもち？」と尋ねることで、自分の思いを伝えたり、友達の思いに気付いたりする力につながる。自分の思いを言葉で表せないもどかしさに寄り添い、思いを組んで、気持ちを表す言葉を知らせることも大切だと学んだ。
- ・小学校低学年では、互いの思いを伝えられずにトラブルになることが多く見られる。「大切なことば」として「おうちで言おうね」「わかるようにいおうね」「ごめんね」が挙げられていた。互いの思いを理解し合う前に「ごめんね」と言い合って解決する



ことを急ぐのではなく、じっくりと思いを伝え合うことを大切にしていきたい。また、「いいよ」と言った子どもに、本当にいいのか、どんな気持ちでしたのか、何が嫌だったのか等を問いかけて思いを引き出し、伝え合えるように関わっていきたい。

大切なことば

- 「おくちで、いおうね」
- 「わかるように、いおうね」
- 「ごめんね」

○保護者との連携について

- ・親などが保護者という立場でまとまるのは、就学前施設が初めてである。就学前施設は、子どもの教育・保育を通して、親は保護者という自覚をもち、保護者集団を作ることができるようにすることが大切である。「人は人の中で育つ」と言われ、子どもも子どもの中で育ち、保護者も保護者の中で成長していくことを学んだ。
- ・就学前施設とは違って、1年生になると学習に関して評価をしなければならず、保護者が初めて子どもの学力を聞くことになる。よくあるのが「幼稚園ではよく頑張っていたのに」「うちの子どもに何か問題があるのでしょうか」「先生、よく見てくれているのではないか」という反応である。戸田先生が講演の中で、親を「保護者」にするという内容があった。今回の連携・接続で小学校教育について機会を見つけて保護者に伝えてもらえたら、保護者も前向きに捉えられるのではないか。

② ブロック会議

7月に4校園所の施設長が集まり、ブロック会議を開催し、「コロナ禍での連携・接続について」「コロナ終息後の連携・接続について」協議した。その後は、コロナ禍のため対面でのブロック会議を控え、メール等を活用し、取組可能なことは実施する方向で進めることにした。

【コロナ禍での連携・接続について】

- ・コロナ禍では、小学校内の様子を5歳児が見学することは難しいため、小学校の施設や授業の様子、給食の様子を動画撮影する。特に、小学校での給食を心配する子どももいるので、入学前に給食の配膳の仕方や給食の量等も知ることができると、安心するのではではないか。
- ・就学前施設の教職員が小学校で給食を試食し、その様子を動画撮影して5歳児に見せたり、おいしかったことを話したりすることで、給食への関心が高まるのではないか。

【コロナ終息後の連携・接続について】

- ・小学校の運動会の予行練習を見学したり、広い校庭で小学生と一緒にリレーや競技などをしたりしたい。
- ・遠足などで教室が空いている日に校内見学をし、その後、5歳児が給食体験をしたい。
- ・小学校のプールにも関心が高いので高学年と一緒にプールに入る経験をしたい。

○Teamsでの交流会について

- ・4校園所の管理職や教頭・主任で、活動内容や活動の日程調整等を行い、その後、小学校の6年生の担任と打ち合わせをした。

- ・交流案は、小学校の動画を見た4校園所が交流保育案（子どもの質問を含めたものや園での様子を撮影した運動会など）を立案し6年生の担任と打ち合わせをした。
- ・小学校では、6年生のキャリア教育に位置付けて、交流を計画した。

○4校園所での Teams 交流会取組のスケジュールの作成

月 日	就学前施設ですること	小学校
9月8日 12:10~13:05	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前施設の教員が小学校での給食の様子、準備、配膳、食べている様子、片付け等を見学する。 ・就学前施設の教員が給食の試食（緊急事態宣言延長ため中止） 	※緊急事態宣言延長につき中止となったため、小学校の方で、給食の様子を動画撮影し、就学前施設にビデオ配付をすることとなった。
10月11日～	※1 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の動画を見て、5歳児の質問や感想を書き留めておく。 ・質問や感想を手紙にする。 	
10月18日～	※2 <ul style="list-style-type: none"> ・5歳児からの質問、感想を小学校に届ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が、5歳児からの質問に対する答えを考える。
10月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・Teamsで交流する方法を小学校教職員から学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Teamsの操作について、就学前施設教職員に伝達する。
10月27日 10月28日 11月1日	※3 <ul style="list-style-type: none"> ・5歳児と6年生がTeamsでの交流をする。 ・加美北幼稚園をメインにした交流会 ・さくらんぼ保育園をメインにした交流会 ・加美第1保育所をメインにした交流会 	

※1 5歳児が小学校の様子を視聴する（給食の様子、音読の様子など）



※2 5歳児からの質問、感想を小学校に届ける

動画を見た5歳児の感想や驚き、疑問、期待や不安を手紙にして届けた。



※3 どの会議にも参加できる Teams での交流会とした。

交流会の内容

- ・自己紹介
- ・5歳児からの質問コーナー
- ・小学校の運動会や理科の実験の動画視聴
- ・レクリエーションタイム
(しりとりゲーム、○×クイズ)



交流会が始まると、5歳児はオンラインで6年生と交流できることに驚いていたが、次第に慣れ、6年生の話聞いて「よく分かったよ。」と進んで腕で丸のサインをしていた。6年生は、5歳児が丸のサインをすると、「よかった。伝わった。」とほっとした表情をしていた。5歳児は6年生の話聞き、「牛乳は骨を丈夫にするから給食に出るんだね。」「パソコンを使って勉強をすることもあるんだ。」「パソコンを使ってみたいな。」などと言いながら聞き入っていた。その後、しりとりゲームをしたり、運動会の動画や園所での子どもの活動を見せ合ったりして、最後に6年生が「入学するのが楽しみになりましたか？」と尋ねると、5歳児は「はい！」と嬉しそうに答えていた。初めに「こんにちは。」とあいさつしていたときはお互い緊張している表情だったが、最後に笑顔で「バイバイ。」と手を振り合う姿から、親しみがもてたことが感じられた。

交流後、5歳児がお礼の気持ちを込めてつくったポスターを就学前施設の教職員が6年生に届けたときに、「6年生の皆さんが園所に通っていたときにいた先生も交流会の様子を見て、『背も高くなって、素敵なお6年生になった』と皆さんの成長を驚いていたよ。」と6年生に声をかけると、とても嬉しそうだった。また、少人数でお礼を届けた5歳児は、「加美北小学校に入学するのでとても楽しみです！」と伝えたり、背比べをして、6年生の背の高さに驚いたりして、和やかな雰囲気だった。



3 Cブロックの研究のまとめ

【研究の成果】

- ・ 5歳児は、小学校の授業や給食の様子を動画で見たり、質問したことを6年生に答えてもらったりしたことで「勉強は難しそうだけどやってみたいな」「実験をしたくなかった」「6年生って優しいな」「ありがとうの気持ちを伝えたいな」等、自分の思いを伝えることができたと同時に、小学校進学への期待にもつながった。
- ・ 小学生も就学前施設の子どもも交流しているときの表情がいきいきしており、自分を発揮して活動している姿から、人と関わる力、相手のことを思いやる心、小学生へのあこがれの気持ちなどが育ってきた。
- ・ 教職員は、コロナ禍にありながらも、従来の交流にとらわれることなく動画や Teams など、いろいろな形で関わり、お互いの教育・保育を知ることができた。継続的、計画的な交流が子ども同士の信頼感や心の通じ合い、育ち合いにつながることを実感した。
- ・ 研究を通して、5歳児が和式トイレや給食のことについて不安を抱いていること、ひらがなを書いたり、計算したりすることができるようになりたいという強い思いをもっていることなどを知った。そのことが次年度からのスタートカリキュラム作成の参考になった。小学校では、入学後の20日間は、一コマ45分を15分ずつの3分割にして、カリキュラムを考えることにした。入学式の翌日に、トイレの使い方、3日目には、給食エプロンの着方、たたみ方、片付け方について丁寧に伝えるなど、子どもが安心して自分でできるように作成した。

【今後の教職員同士の関わり】

- ・ 時間を見つけて各施設を見学し、園児や児童の実態をお互いが理解する場を設ける。
- ・ 研究保育や研究授業を教職員が参観し、参観後に協議会の機会を設ける。
- ・ 今回のように1年生になる準備として、5歳児から小学生へ聞きたいこと、教えてほしいことなど手紙や動画で交流する。

【今後の課題】

- ・ 教員間で子どもの育ちを共通理解し、教員が明確にイメージしながらカリキュラムを作成し、子どもが主体性をもって活動できるよう日々の活動を見直していく。
- ・ 就学前施設と小学校が、情報交換しながら「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」〔10の姿〕を共有し、「発達、学びの連続性」という視点で共通理解する取組を行っていく。
- ・ 今後も交流活動を年間の指導計画に位置付け、交流活動を再構成していく必要がある。

4 指導講評 講師：大阪教育大学 戸田 有一 教授

(記録：Cブロック教職員)

- ・教職員が自分の施設のみで子どもを見ていると、どうしても同じ学年とか、同じ年齢の子どもたちをヨコに比較する場面が多いが、連携・接続の取組を通して、就学前施設から小学校卒業までの子どもたちを見るようになって、タテに比較することも増えていることが伺える。これは、連携・接続研究に関わった教職員の「小さかった子が6年生になってこんなにできるようになったね」という言葉にも現れている大事な視点だと感じる。このように、タテに比較する言葉かけの中に、5歳児にとって小学生への「あこがれ」があり、小学生が5歳児を「思いやる」姿がある。この子どもにとっての「あこがれ」が、生涯続いていく学びの動機付けになると思う。
- ・5歳児が小学校を訪問することは、大人が行ったことのない国へ訪問するような感覚で、「未知の世界」である。おそらく、小学校との交流は「探検」「冒険」のようなワクワク感と不安感があり、空間的に視野を広げる機会になる。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の中ということもあり、リアルタイムの動画配信やDVDの配付等、ICT機器を活用し工夫されていた。相手施設を訪問して活動の様子を見学する場合は「静かに見ようね」などと声かけするので、訪問した子の素直な反応を見ることは難しいが、DVDだと、各施設で見ることができるよううえに、視聴しながらその場で子どもが思い思いに感想を述べるができる良さがある。DVDを作成したことで、他の就学前施設にも配付でき、つながることのできる可能性を感じた。
- ・6年生と5歳児の交流を、小学校では6年生のキャリア教育に位置付けていたことが興味深かった。通常のキャリア教育では、人生の「これから」への視野拡張の話をすることに重心がある。それがここでは、人生の「今まで」への視野拡張であった。今までの人生を振り返りつつ未来を見通すキャリア教育という取組が興味深かった。小学生が「幼稚園ってなつかしいな」と語るのは子どもにとってプラスの部分であるが、一方で「あのときこうしておけばよかった」と「後悔」をすることもある。しかし、「後悔」さえも、自分で選んできた感覚があるからこそ「後悔」ができる。そういう意味で、「後悔」は自分が主体的に生きてきた証であると言える。今回の連携・接続研究の2年間の中で、子どもが選ぶ場面、子どもがアイデアを出す場面、子どもが問いを発する場面など、たくさんの主体性を発揮する場面が見られた。
- ・教職員同士の関係性については、どの施設の教職員にも「共通する何かがある」と感じて相互の信頼感が生まれてきたのではないかと感じた。また、互いの違い、独自性への気付きが相互のリスペクトとなる。コロナ禍におけるエッセンシャルワーカーとしての自覚と誇り、教育・保育の仕事におけるかけがえのなさも自覚できた取組であった。
- ・最後に、コロナ禍で大変な時期の連携・接続研究となったが、このような状況は今後も間違いなく起こる。今も大変だが、もっと大きな危機におけるサバイバルへの予行演習にもなったように思っている。そういった時にどうやってつながり支え合ってサバイバルしていくかということ、こういった取組の中で準備されたのではないかと思う。

5 参加者のアンケートから

- ・それぞれの施設の教職員同士が授業や保育の実際を参観することで、教育・保育の違いを知り、子どもたちにとってよりよい交流・接続になるようにと学びあう取組が、子どもたちの姿に反映されていた。幼児の素朴な疑問や不安に丁寧に答えてくれる高学年の児童、Teams でのやりとりの様子など、子どもたちの興味津々な顔が目についた。小学校のスタートカリキュラムを見直し、次年度の取組への期待を共有するなど、発展的に生かそうとされているところが素敵だと思った。
- ・保幼小連携について、小学校という未知の世界に足を踏み入れる年長児にとって、少しでも見通しをもち、不安を取り除き、安心して小学校へ行くために必要な取組だと思った。教職員同士が意見交流して、その地域で可能な取り組みを、今後もしていかなければいけないと思った。
- ・コロナ禍で中止を余儀なくされる所を工夫されて、できることを考えられた内容に素晴らしいと思った。給食の動画では、講師の方も話されていたように学校に見学に行くよりも、保育室でリラックスしてみんなで見るのができたことで思ったことをすぐに伝え合えるという安心感から、いろいろなつぶやきが子どもたちの中から出てきたのではないかと思い、コロナ禍でなくても動画はよいと思った。
- ・戸田先生の「タテを見て、憧れ、思いやる気持ちを育てる」という言葉は、ついつい、ヨコを見がちであった自分の反省になり、保育を進めて行く中で今後意識していかなければいけないと思った。
- ・幼児がどんなことに不安を感じているのか、どんなことが気になるのかを知ることで、就学前にその不安や気がかりを少しでも減らすことができるよう、小学校と接続することの重要性を感じた。給食の様子を実際に見ることができたのは、幼児にとって貴重な情報だったと思う。大人が思いもしないことに、幼児は不安に思ったり、心配になったりするるので、小学校と互いに理解し合い、接続されていることは、素晴らしいと思った。
- ・コロナ禍でありながらも工夫をして連携を深めておられることを学び、本校でも生かしていきたいと考えている。

大阪市立加美北幼稚園

保護者への啓蒙を行いました

幼児期の学びの芽生えを見童期の自覚的な学びへとつなぐ

～ 幼児期の遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮する学校生活へ ～

幼稚園での生活

<お店屋さんごっこ>



ごっこ遊びをするために、
どんな役割があるか話し合い、
やりたい役を自分で決めて、
準備から片付けまでを自分たち
で行い、遊びを進めていく

いらっしゃいませ
メニューカードを
スキャンしてくださいね

いらっしゃいませ
いちごケーキ
2つください

いらっしゃいませ
おいしいハンバーグが焼きましたよ



- ・友達とイメージを共有したり共感したりする中で自分の思いや考えを伝え合う
- ・言葉や文字に関心をもつ
- ・数量、比較、分類等の概念の獲得につなげる
- ・友達と言葉のやりとりを楽しむ
- ・友達と考えを出し合い協力したり工夫したりして遊びを進める
- ・役割を分担して遊びを進め、責任をもつてやり遂げる
- ・自分の力で行動する充実感をもつ
- ・生活の体験を遊びに活かして遊びを工夫する
- ・場面や話す相手によって言葉の使い方が違うことに気付く

小学校での学びへ



スタートカリキュラム案(第1週)

大阪市立加美北小学校

実施日	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目				
行事	入学式	始業式	入学おめでとう集会						
幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 (1)健康な心と体 (2)自立心 (3)協同性 (4)道徳性・規範意識の芽生え(5)社会生活との関わり (6)思考力の芽生え (7)自然との関わり・生命尊重 (8)数量・図形・文字等への関心・感覚 (9)言葉による伝え合い (10)豊かな感性と表現									
1		学	名前を呼ばれたら大きな声で返事をする。(1)(2)	音	友だちと歌いながら、手遊びをしたり、体を動かしたりして楽しく遊ぶ。(1)(3)(10)	道	気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などを心がけて、明るく接することを考える。(1)(4)(9)		
		学	くつ箱の使い方を考える。(5)	音	友だちと歌いながら、手遊びをしたり、体を動かしたりして楽しく遊ぶ。(1)(3)(10)	国	言葉のリズムを楽しみながらみんなと一緒に声を出すことができる。(8)	国	言葉のリズムを楽しみながらみんなと一緒に声を出すことができる。(6)(8)
		学	トイレの使い方(1)	音	友だちと歌いながら、手遊びをしたり、体を動かしたりして楽しく遊ぶ。(1)(3)(10)	国	友だちと歌いながら、手遊びをしたり、体を動かしたりして楽しく遊ぶ。(1)(3)(10)	国	友だちと歌いながら、手遊びをしたり、体を動かしたりして楽しく遊ぶ。(1)(3)(10)
2	入学式に参加する。(2)(5)	学	話の聞き方と座る姿勢を知る。(3)	音	友だちと歌いながら、手遊びをしたり、体を動かしたりして楽しく遊ぶ。(1)(3)(10)	書	字を書くときの姿勢や鉛筆の持ち方を知る。(6)(8)	音	仲良
		音	友だちと歌いながら、手遊びをしたり、体を動かしたりして楽しく遊ぶ。(1)(3)(10)	音	友だちと歌いながら、手遊びをしたり、体を動かしたりして楽しく遊ぶ。(1)(3)(10)	書	適切な筆圧で線や簡単な文字を書き、運筆になれる。(6)(8)	体	 (6)
		音	友だちと歌いながら、手遊びをしたり、体を動かしたりして楽しく遊ぶ。(1)(3)(10)	音	友だちと歌いながら、手遊びをしたり、体を動かしたりして楽しく遊ぶ。(1)(3)(10)	書	手本を見ながら、自分の名前を丁寧に書く。(6)(8)	体	手本を見ながら、自分の名前を丁寧に書く。(6)(8)
3	入学式後、教室で担任の先生の話を聞く。(2)(3) 自分の教室の場所を覚える。	生	保健室を見学し、どんな時に利用するか知る。(1)(5)	算	数の多さを比べることがあるかな。(8)	図	クレヨンの使い方を知り、自分の好きなものを描く。(6)(10)	算	数量の大きさを表す「いち」「に」…「ご」の数詞と「1」「2」…「5」の数字が対応していることを知り、1～5個のものの数を数えることができる。(6)(8)
		国	学校生活の中で、できるようになりたいことを発表する。(2)(9)	算	学年下校の仕方を覚える。(1)(2)(3)(4)(5)	図	クレヨンを使いながら、自分の好きなものを描く。(6)(10)	算	数量の大きさを表す「いち」「に」…「ご」の数詞と「1」「2」…「5」の数字が対応していることを知り、1～5個のものの数を数えることができる。(6)(8)
		国	 (1)(2)(3)(4)(5)	学	給食エプロンの使い方や給食のきまりを知る。(3)(5)	算	給食エプロンの使い方や給食のきまりを知る。(3)(5)	算	他者に関心をもち名前などを伝えあっていることを知り、1～5個のものを数えることができる。(6)(8)
4	通学路を確認しながら、保護者と一緒に下校する。(1)(2)(3)(4)(5)	学	給食エプロンの使い方や給食のきまりを知る。(3)(5)	算	給食エプロンの使い方や給食のきまりを知る。(3)(5)	算	解する。(8)	国	読み聞かせを聞くことで本に親しむ。(8)(9)(10)
		学	給食エプロンの使い方や給食のきまりを知る。(3)(5)	算	給食エプロンの使い方や給食のきまりを知る。(3)(5)	算	解する。(8)	国	読み聞かせを聞くことで本に親しむ。(8)(9)(10)
		学	給食エプロンの使い方や給食のきまりを知る。(3)(5)	算	給食エプロンの使い方や給食のきまりを知る。(3)(5)	算	解する。(8)	国	読み聞かせを聞くことで本に親しむ。(8)(9)(10)
備考		学年地域別下校	学年地域別下校	学年地域別下校	学年地域別下校				

スタートカリキュラム案(第2週)

実施日	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目				
行事									
幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 (1)健康な心と体 (2)自立心 (3)協同性 (4)道徳性・規範意識の芽生え(5)社会生活との関わり (6)思考力の芽生え (7)自然との関わり・生命尊重 (8)数量・図形・文字等への関心・感覚 (9)言葉による伝え合い (10)豊かな感性と表現									
1	みんなで教室や学校を見て回り、幼児期に使っていた施設との共通点を探しながら、学校の施設の位置や使い方に気付き、安心して生活することができるようにする。(2)(9)	図	図工の学習目標と準備の仕方を考える。(2)(6)(10)	体	体育の学習目標と準備の仕方を考える。(体操服を着る)(1)(2)(6)	体	体育館へ移動し「体づくり運動(体ほくし)」をする。※習の順の並び方、集合の仕方等を考える。(1)(2)(4)	音	知っている歌をみんなで歌う。(3)(10)
		図	クレヨンを使いながら、自分の好きなものを描く。(6)(10)	体	体育館へ移動し「体づくり運動(体ほくし)」をする。※習の順の並び方、集合の仕方等を考える。(1)(2)(4)	体	体育館へ移動し「体づくり運動(体ほくし)」をする。※習の順の並び方、集合の仕方等を考える。(1)(2)(4)	学	傘やレインコート等、雨具のしまい方を覚える。(1)(2)
		図	クレヨンを使いながら、自分の好きなものを描く。(6)(10)	体	体育の学習目標と片付けの仕方を考える。(体操服を脱ぐ)(1)(2)(6)	体	体育館へ移動し「体づくり運動(体ほくし)」をする。※習の順の並び方、集合の仕方等を考える。(1)(2)(4)	学	雨の日の過ごし方を考える。(1)(2)(4)
2	字を書くときの姿勢や鉛筆の持ち方を知る。(8)	算	1～5の数について、具体物、半具体物、数詞、数字、数詞を相互に関連づけることができる。(6)(8)	体	体育の学習目標と片付けの仕方を考える。(体操服を脱ぐ)(1)(2)(6)	生	みんなで教室や学校を見て回り、幼児期に使っていた施設との共通点を探しながら、学校の施設の位置や使い方に気付き、安心して生活することができるようにする。(2)(9)	図	読み聞かせを聞いたり、自分で本を選んで読んだりするなど、本に親しむ。(学級)(8)(9)(10)
		算	1～5の数について、具体物、半具体物、数詞、数字、数詞を相互に関連づけることができる。(6)(8)	国	これらから学校生活で使いたい言葉や場面を考える。(5)(6)(8)(9)	生	みんなで教室や学校を見て回り、幼児期に使っていた施設との共通点を探しながら、学校の施設の位置や使い方に気付き、安心して生活することができるようにする。(2)(9)	図	読み聞かせを聞いたり、自分で本を選んで読んだりするなど、本に親しむ。(学級)(8)(9)(10)
		算	1～5の数について、具体物、半具体物、数詞、数字、数詞を相互に関連づけることができる。(6)(8)	国	これらから学校生活で使いたい言葉や場面を考える。(5)(6)(8)(9)	生	みんなで教室や学校を見て回り、幼児期に使っていた施設との共通点を探しながら、学校の施設の位置や使い方に気付き、安心して生活することができるようにする。(2)(9)	図	読み聞かせを聞いたり、自分で本を選んで読んだりするなど、本に親しむ。(学級)(8)(9)(10)
3	人と関わるときに大切な言葉に気づき、使うことができる。 ・幼稚園などで、先生や友達、家族と話そうときに使っていた挨拶などの言葉を発表する。(6)(8)(9)	音	音楽の学習目標と準備の仕方を考える。(2)(6)(10)	道	たのしいがこう学校生活で楽しんでいることについて考えるなかで、これからの学校生活への期待を膨らませ、学校の生活を楽しくもつという態度を養う。(1)(4)(9)	算	数量の大きさを表す「ろく」「しち」…「じゅう」の数詞と、「6」「7」…「10」の数字が対応していることを知り、6～10個のものを数えることができる。(6)(8)	算	6～10の数について、具体物、半具体物、数詞、数字、数詞を相互に関連づけることができる。(6)(8)
		音	知っている歌をみんなで歌う。(3)(10)	道	たのしいがこう学校生活で楽しんでいることについて考えるなかで、これからの学校生活への期待を膨らませ、学校の生活を楽しくもつという態度を養う。(1)(4)(9)	算	数量の大きさを表す「ろく」「しち」…「じゅう」の数詞と、「6」「7」…「10」の数字が対応していることを知り、6～10個のものを数えることができる。(6)(8)	算	6～10の数について、具体物、半具体物、数詞、数字、数詞を相互に関連づけることができる。(6)(8)
		音	曲にあわせて、足踏みしたり、手拍子をしたり、行進したりする。(1)(10)	道	たのしいがこう学校生活で楽しんでいることについて考えるなかで、これからの学校生活への期待を膨らませ、学校の生活を楽しくもつという態度を養う。(1)(4)(9)	算	数量の大きさを表す「ろく」「しち」…「じゅう」の数詞と、「6」「7」…「10」の数字が対応していることを知り、6～10個のものを数えることができる。(6)(8)	算	6～10の数について、具体物、半具体物、数詞、数字、数詞を相互に関連づけることができる。(6)(8)
4	「いち」から「ご」までの数詞の唱え方、数え方(6)(8)	国	人と関わるときに大切な言葉に気づき、使うことができる。 教科書の絵を見て必要な言葉を考え、これから学校生活で使いたい言葉を考える。(6)(8)(9)	算	5の構成を理解する。 おはじきを用いた活動を通して、5はいくつに分けられるか考える。(6)(8)	国	相手との距離などによって、必要な声の大きさが違うことに気づくことができる。(5)(6)(8)(9)	国	姿勢や鉛筆の持ち方、手の置き方を知り、鉛筆を使うことに関心をもつことができる。(4)(9)
		国	人と関わるときに大切な言葉に気づき、使うことができる。 教科書の絵を見て必要な言葉を考え、これから学校生活で使いたい言葉を考える。(6)(8)(9)	算	5の構成を理解する。 おはじきを用いた活動を通して、5はいくつに分けられるか考える。(6)(8)	国	相手との距離などによって、必要な声の大きさが違うことに気づくことができる。(5)(6)(8)(9)	国	姿勢や鉛筆の持ち方、手の置き方を知り、鉛筆を使うことに関心をもつことができる。(4)(9)
		国	人と関わるときに大切な言葉に気づき、使うことができる。 教科書の絵を見て必要な言葉を考え、これから学校生活で使いたい言葉を考える。(6)(8)(9)	算	5の構成を理解する。 おはじきを用いた活動を通して、5はいくつに分けられるか考える。(6)(8)	国	相手との距離などによって、必要な声の大きさが違うことに気づくことができる。(5)(6)(8)(9)	国	姿勢や鉛筆の持ち方、手の置き方を知り、鉛筆を使うことに関心をもつことができる。(4)(9)
備考	学年地域別下校	学年地域別下校							

スタートカリキュラム案(第3週)

実施日	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目
行事	発育測定				
	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 (1)健康な心と体 (2)自立心 (3)協同性 (4)道徳性・規範意識の芽生え(5)社会生活との関わり (6)思考力の芽生え (7)自然との関わり・生命尊重 (8)数量・図形・文字等への関心・感覚 (9)言葉による伝え合い (10)豊かな感性と表現				
1	道 道 道	国 国 国	音 音 音	生 生 生	国 国 国
2	生 生 生	学 学 学	国 国 国	算 算 算	書 書 書
3	国 国 国	図 図 図	算 算 算	体 体 体	生 生 生
4	体 体 体	算 算 算	体 体 体	国 国 国	算 算 算
5	算 算 算	国 国 国	図 図 図	算 算 算	音 音 音
備考					

スタートカリキュラム案(第4週)

実施日	16日目	17日目	18日目	19日目	20日目
行事	発育測定				
	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 (1)健康な心と体 (2)自立心 (3)協同性 (4)道徳性・規範意識の芽生え(5)社会生活との関わり (6)思考力の芽生え (7)自然との関わり・生命尊重 (8)数量・図形・文字等への関心・感覚 (9)言葉による伝え合い (10)豊かな感性と表現				
1	道 道 道	国 国 国	音 音 音	生 生 生	国 国 国
2	生 生 生	学 学 学	国 国 国	算 算 算	書 書 書
3	国 国 国	図 図 図	算 算 算	体 体 体	生 生 生
4	体 体 体	算 算 算	体 体 体	国 国 国	算 算 算
5	算 算 算	国 国 国	図 図 図	算 算 算	音 音 音
備考					